

「情報ネットワーク施工」世界一決定戦(光)課題

1. 競技時間

最大 90 分（光ケーブル処理作業 45 分、光融着接続作業 45 分）

※本競技は、接続を終了し 196 ポイントを取得した者の内、終了時間がより早いものを上位とする。

2. 課題内容

光接続箱を用いて、ルールを厳守し、光ケーブルの接続を行いなさい。

【接続の方法】

技能五輪全国大会「情報ネットワーク施工」職種予選会と同じとする。

【接続ルール】

- (1)本競技は、融着接続により光ファイバをより長く接続するものである。
- (2)測定の結果、定められた損失値を超える箇所は断線と判断し、それ以降の接続は採点対象としない。
- (3)心線接続方法（線番など）は、自由とする。
- (4)融着機のプログラムは、適切に融着及びブスリーブ加熱ができるならば、自由に変更しても良い。
- (5)被覆除去後のファイバ清掃は毎回3回以上行うこと。また、ワイプ紙は1ファイバ/1枚とすること。
- (6)テープ被覆の清掃は、毎回行うこと。ただし、スリーブを通す心線だけでよい。
- (7)光ファイバストリップの清掃は、毎回行うこと。
- (8)光ファイバカッター、融着接続機の清掃は、接続品質に問題が無いよう適宜行うこと。
- (9)ホルダは複数個使用して良い。
- (10)光ファイバカッター、融着接続機は1台のみの使用とするが、故障等に備え、予備を試験会場内に持ち込んでも良いこととする。
- (11)放電検査の実施は、準備時間内に行うこと。
- (12)心線余長は0.75m 以上であること。
- (13)OTDR等を使用して、接続損失を測定しても良い。
- (14)競技時間は90分であるが、初めの45分間（準備タイム）で接続前の以下の準備を行い、後半の45分間（接続タイム）で融着接続を行う。接続タイムは、全選手が同時にスタートするので、早く準備が終わった者は、その場でスタートの合図まで待機すること。なお、準備タイム間は、その方法等に関する採点が行わない。また、45分の間に事前準備が終わらなかった者は、接続タイム開始後も準備を続け、終了後に「自ら」接続を開始すること。ただし、接続タイムは全選手同時に終了する（接続タイムの延長は行わない）。
- (15)接続タイム開始時は、作業椅子に座って、いつでも作業開始ができる状態にしておくこと。
- (16)保護メガネを着用すること。
- (17)準備タイムを含む競技中にケーブルや心線が切断してしまった場合など、競技が続けられなくなっ

てしまった場合でも、救済措置はとらない。

(18)その他ルールは第48回技能五輪全国大会の課題2に準ずる。

【採点のルール】

技能五輪全国大会「情報ネットワーク施工」職種予選会に基本的に準ずることとするが、以下のことを別に定める。

- (1)最後の接続(49接続目)が終了した時点(保護スリーブを加熱し、加熱終了ブザーが鳴った時点)で、終了と見なすが、保護スリーブを加熱器に入れた時点で「終了しました」と挙手すること。
- (2)はじめに挙手をした者が加熱終了する前に、別の者も保護スリーブを加熱器に入れた場合は、同タイムとみなす。
- (3) OTDR(1.55 μ m)を用いて各心線をそれぞれ測定し、以下の①～③のルールを当てはめる。
 - ①接続損失が2.0dB以上である場合には、断線と判断し、それ以降の対象心線のポイントはカウントしない。
 - ②接続損失が $1.0\text{dB} \leq X < 2.0\text{dB}$ の場合は、接続数を2(ポイント数8)減ずる。
 - ③接続損失が、 $X < 1.0\text{dB}$ の場合は、ポイント数をそのままカウントする。